

留学生の声

塾内在籍高校・学年(派遣時)	女子高等学校
留学先高校名	Deerfield Academy
留学期間	2018年 9月から 2019年 6月まで

どのようなことを期待して渡航しましたか？

世界中から集まる優秀な生徒達と切磋琢磨しながら勉強に励み、寝食を共にしたりして多様性の溢れる環境で刺激的な毎日を送れることを期待して渡航しました。また、授業や課外活動では世界トップレベルの先生方に教わり、興味のある様々な分野で成長・上達したいと思いました。

留学を振り返って

良かった点は沢山ありますが、その中で私が一番感動したのは先生方と生徒の距離の近さでした。授業の先生も課外活動の先生も生徒一人一人のことを家族のようにととても大切にしてくださいました。また、どんな話も親身になって聞いてくださる優しいカウンセラーの先生方もいました。家族から離れてレベルの高い学校で忙しい生活を送る生徒達にとって、いつでも先生方の心のサポートがあると思えるのはとても大事なことだったと感じます。私自身も大変な時は何人もの先生がととても親切にしてくださいました。また、世界の各国から集まる友人との日常の会話や授業中の真剣なディスカッションではいつも学ぶことが沢山ありました。勉強はもちろんのこと、それぞれの才能を最大限活かして努力する仲間と生活することで視野が広がり、自分自身の限界も試され、大きく成長出来たと思います。新しいことに挑戦したいと思った時も友人がいつもサポート体制でいてくれたことには本当に感謝しています。

課外活動は何をしていましたか？

冬学期と春学期はダンスをやりました。ディアフィールドのダンスプログラムは大変充実していて、月曜日から金曜日までレベル別でバレエ、ポワント、ジャズ、コンテンポラリー、ヒップホップ、タップのレッスンがあり、アメリカトップレベルの先生方が生徒の実力にあったクラスで指導してくださいました。毎学期オーディションがあり、それに合格すれば学期末にある舞台に出ることが出来ます。合格者は毎週末に1つのパートにつき1時間半の練習があり、春学期は8つのパートで踊ることになっていた私は、舞台練習だけで合計12時間練習があり週末が平日以上に忙しくなってしまうことも多々ありました。また、プライベートレッスンで各回45分間先生に付きっきりで指導していただいたり、時々開催される土曜日のバレエレッスンにも必ず参加していました。このようにダンスに真剣に取り組んだ結果、宿題をする時間を確保するのに苦労した時もありましたが、毎日何時間も一緒に過ごしたダンスの仲間との絆は今でもかけがえのないものです。ダンスの舞台も学校では大変好評のイベントで、毎回学校中の先生や友人が見に来てくれました。ステージ上から聞こえる歓声にいつも背中を押されていたように思います。



授業・宿題について

基本的に多くて 15 人の少人数クラスがほとんどで、全てがディスカッション形式で行われました。宿題では次の授業の予習が出され、授業ではそれについて討論し理解を深めるスタイルです。

数学：日本の授業と比べると少し簡単に感じるとと思います。新しい単元に入るときは基礎基本や原理の理解を目的として授業が進んでいくので、普段の授業で応用・発展の問題を解くことに慣れている慶應の生徒は数学で躓くことはないのではないかと思います。

Language (外国語)：どの言語を取るにしても授業は全てその言語で行われます。私はフランス語を履修しましたが、第 1 日目から先生はフランス語で教え、生徒は英語を話すことが一切禁じられていました。質問をしたい時などは少し大変ですが、毎日本格的な先生のフランス語を聞いていることで不思議と理解し話せるようになってきます。新しい文法を学ぶ時もとにかく口に出して練習することが重要視されていました。

U.S. History：1 年間でコロンブスがアメリカ大陸に来た時から現在までを学びました。今年からはテーマごとに沿って学ぶ形式にカリキュラムが変わりました。そのため時代を飛び回ることが多く、年代順配列を理解するのに少し苦戦しました。しかし、大切なテーマに沿って学び、幾つものエッセイを書くことを通してより深く理解することが出来たと思います。

American Identities：毎日宿題で文庫本を 30 ページほど読み、授業ではその内容についてディスカッションをしました。1 週間に一冊のペースで読み終わっていました。授業の 40 分で 3 ページほどのエッセイを書く In-Class Essay があることもあり、クラスとしては非常にレベルが高いものだったように感じます。

Dance：毎週月曜日にそれぞれが 1 週間で choreograph(創作/振り付け)して来たダンスを発表し、火～金曜日はバレエやジャズなどのテクニッククラスが基本でした。

なお宿題は、各科目 1 時間以上かかる量が毎日課せられる為、1 日の時間を有効活用しないととても終わりませんでした。私は早起きをして授業前の 2～3 時間や Free Period、夜の勉強時間を使って効率的に終わらせることを心掛けていましたが、Wifi が切れてしまう 1 時まで勉強をしていることもよくあり、本当に大変な時は携帯のインターネット共有を使いさらに遅くまで起きていることもありました。

今後の派遣留学生へのアドバイス

10 ヶ月は初めは長いように感じるかもしれませんが、終わってしまえば本当にあっという間です。非常に恵まれた環境にいることを忘れず一日一日を大切に過ごし、帰国前に後悔が無いように少しでもやりたいと思ったことには挑戦してください。たった 10 ヶ月の留学期間をどのくらい充実させるかはすべて自分次第です。

また、勉強はもちろん大切ですが、課外活動や友人と過ごす時間も同じくらい大切です。素敵な先生や仲間との関わりや繋がりも一期一会の気持ちで一瞬一瞬を大事にしてください。自分から積極的に関わることで想像もしていなかったようなかけがえのない出会いを見つけることが出来るはずです。

最後に、留学先の学校では唯一の日本人であることが多いので、自分自身がその学校では日本人の代表であることを忘れないでください。厳しいことを言いますが、アメリカでは思っている以上に日本の文化はまだ知られていないため、私の場合でもそうであったように皆さんの発言や行動はすべて日本人としてのものと捉えられます。しかし、それは逆に日本の文化を知ってもらえる貴重なチャンスでもあります。嬉しいことに、皆日本の文化についてとても興味を持ってくださっているので、授業のディスカッションや課外活動を通して少しでも日本の文化を皆に知っていただけたら良いと思います。

以上